

特別支援学校における 作業学習の取り組み

千葉大学教育学部附属特別支援学校 千田 恵一

1. はじめに

本校は、千葉市稲毛区にある特別支援学校で、知的発達に障害のある児童生徒72名が在籍している。小学部・中学部・高等部の3つの部からなり、小学部は生活単元学習（一定の期間、一定の生活上のテーマに沿った一連の活動に取り組む学習）と日常生活の指導を、中学部は生活単元学習と作業学習を、高等部では作業学習をそれぞれ教育課程の中心に据えて学校生活を整えている。卒業後の働く活動を中心とした社会生活につながるように、働く生活を学校生活に大きく位置づけ、社会とかかわる生活を大切にしている。

本校では、中学部にあいぞめ班、やきもの班、しいたけ班の3つの作業班が、高等部に木工班、レザークラフト班、手織り班、農耕班の4つの作業班がある。所属については、年度はじめに生徒の希望や保護者の希望を聞き、教師の思い、作業班のバランスなどを考慮し、生徒が納得して取り組むことができる所属となるように努めている。所属が決定したら、1年間同じ作業班で取り組む。中学部、高等部それぞれ3年間で、2つの作業班を経験できるように配慮している。

作業学習では、単に「ものづくり」に取り組むだけでなく、各作業班とも材料購入、納品・販売先との連絡・交渉、集金・支払い・会計処理など、作業班を運営するに当たって必要な活動を生徒が中心となって取り組めるようにしている。

特別支援学校に通う児童生徒たちは、とかく「できない子ども」と見られがちである。しかし、本校では子どもたちは「できる状況」に置かれていないから「できない」のであり、道具や補助具、本人の「やろう」という気持ちを盛り上げるような支援の仕方などを工夫して「できる状況」を整えれば、取り組めることが増えると考えている。現在、本校では、「共に豊かに生きる学校生活を目指して－子どもの思いに寄りそい、子ども主体を支える－」という研究テーマを掲げ、実践に取り組んでいる。1人ひとりの子どもたちの思いや様子を的確にとらえ、思いに寄りそった活動を用意し、「よりよくできる状況」を整え、満足した学校生活になるよう、日々「できる状況づくり」を徹底して追究している。

今回は、今年度5月に高等部木工班が取り組んだ単元（一定期間、一定のテーマをもって、見通しをもちやすいよう、活動にまとまりを作って取り組んでいる。その1つひとつのまとまりを単元という）を紹介する。

2. 単元「木工・レザークラフト大販売会－Y駅－」について

本単元は、レザークラフト班と合同で行う「木工・レザークラフト大販売会－Y駅－」に向けて、新製品「パネルキューブ」やウッドパネルの製作や販売会の準備活動に、みんなで力を合わせて取り組もうというものである。

レザークラフト班と合同で

単元「花屋F店等へ、新製品『ウッドパネル』の納品」(4～5月)では、ウッドパネルとフォトスタンドを製作し、得意先へ多くの製品を納品した。本単元について班長を中心にみんなで相談したところ、「ほかの班と一緒に盛大に販売会をしたい」という声があがった。同じように販売会を計画していたレザークラフト班との話し合いにより、今年度最初の2班合同の販売会を行うことになった。週に一度、合同で昼食をとりながら「大販売会連絡会」を行い、お互いの製作状況を伝え合ったり、合同で「『大販売会』だより」を発行したりして、2班で協力し合って取り組んでいく。

全員で「パネルキューブ」を「大販売会」に

「さらに新しい製品を作りたい」という生徒の声をもとに、4月のウッドパネルの製作工程をできるだけ変えずに製作できる新製品「パネルキューブ」を作ることになった。1つのラインで全員で協力して2種類の製品を作り上げてほしい。「大販売会」に向けて、売り上げ目標数をみんなで相談し合って決め、出来高表を作成して班全体で確認し合って製作を進める。目標達成を目指して、出来栄のよい製品を精いっぱい製作してほしい。

担当の仕事に次々と

単元期間中、1人ひとりの得意な活動に合わせて、切断、面取り、塗装、組み立てなどの工程を担当し、同じ仕事に繰り返し取り組む。塗装では、ムラなく塗れるように、扱いやすく道具を工夫したり、組み立てでは、補助枠等を改善したりして、1人ひとりに合った道具や補助具等を用意していく。初めての担当に取り組む生徒もいるので、丁寧に手順等を確認し合いながら、安全に留意して製作を進める。早く自分の担当の仕事に慣れて、次々と仕事に取り組んでほしい。

みんなで協力して「大販売会」を盛り上げて

「大販売会」に向けて、製品の値札付け等、販売会の準備活動も、役割を担当して力を合わせてやり

遂げてほしい。班長を中心として、Y駅へFAXを送付したり、電話連絡をしたりしていく。花については、ここ数年、やりとりがあるC高等学校生産ビジネス科と連携していく。単元期間中、全員で協力して製作や準備活動などに取り組み、今年度初めての販売会をやり遂げ、満足感いっばいに単元を締めくくってほしい。

3. 単元におけるねがい

- 「パネルキューブ」とウッドパネルの製作の担当の仕事に、自分から精いっぱい取り組んでほしい。
- 販売会当日は、班の仲間やレザークラフト班の仲間と協力して、たくさんの製品を販売し、満足感を味わってほしい。

4. 単元の計画

(1) 計画を立てるに当たって

—思いに寄りそい、生徒主体を支えて—
【生徒主体の単元活動の進め方】

- ① 今年度初めての販売会を目指して、仲間とテーマを共有できるように
 - ・「パネルキューブ」とウッドパネルの製作や、販売会に向けての仕事に全員で力を合わせて取り組む。
 - ・折にふれて、Y駅で実施する「木工・レザークラフト大販売会」のことやレザークラフト班と合同で行うことなどを話題にしていく。
- ② 「大販売会」への気持ちが高まるように
 - ・単元のはじめに、試作品を見ながら「パネルキューブ」を作って販売することを確認し合ったり、製作目標数をみんなで相談して決めたりする。
 - ・出来高表を作成して作業室内に掲示し、日々、目標個数や製品の完成数などを記入していく。
 - ・出来上がった製品から入り口奥の完成品置き場に並べていく。
- ③ 「大販売会」への期待感や、製作の見通しを

もてるように

- ・ Y 駅へのあいさつや打ち合わせの様子，製品の目標数や製作状況が，仲間や家庭で話題になるよう，作業班だより係がレザークラフト班と協力して，『大販売会』だより』を毎週発行する。
- ・ レザークラフト班と協力して，販売会のチラシを作成したり，一緒にPR活動に出かけたりする。

④ 満足感・成就感を味わえるように

- ・ 単元の締めくくりに，全員でY駅へ出かけ，完売目指して販売をする。

〔主体性を支える場の設定・道具や補助具などの工夫〕

① 新製品の製作に精いっぱい取り組めるように

- ・ それぞれの製作工程ごとに，1人ひとりに合った補助具を用意し，新しい担当の仕事を進めやすくする。

② 「大販売会」に向けて，仲間と一丸となって取り組めるように

- ・ 全員がお互いの製作の様子を見合って，一体感をもって仕事を進められるように作業台を配置する。

〔共に活動しながらの支援〕

① 「大販売会」に向けて気持ちが盛り上がり，意欲的に取り組めるように

- ・ 新しい工程や手順となる生徒には，はじめは一緒に丁寧に確認し合う。
- ・ 仕事の進み具合や材料の仕上がり具合を確認しながら声をかけたり，生徒によっては，慣れるまで手を添えて一緒に進めたりする。

② 繰り返し時間いっぱい取り組めるように

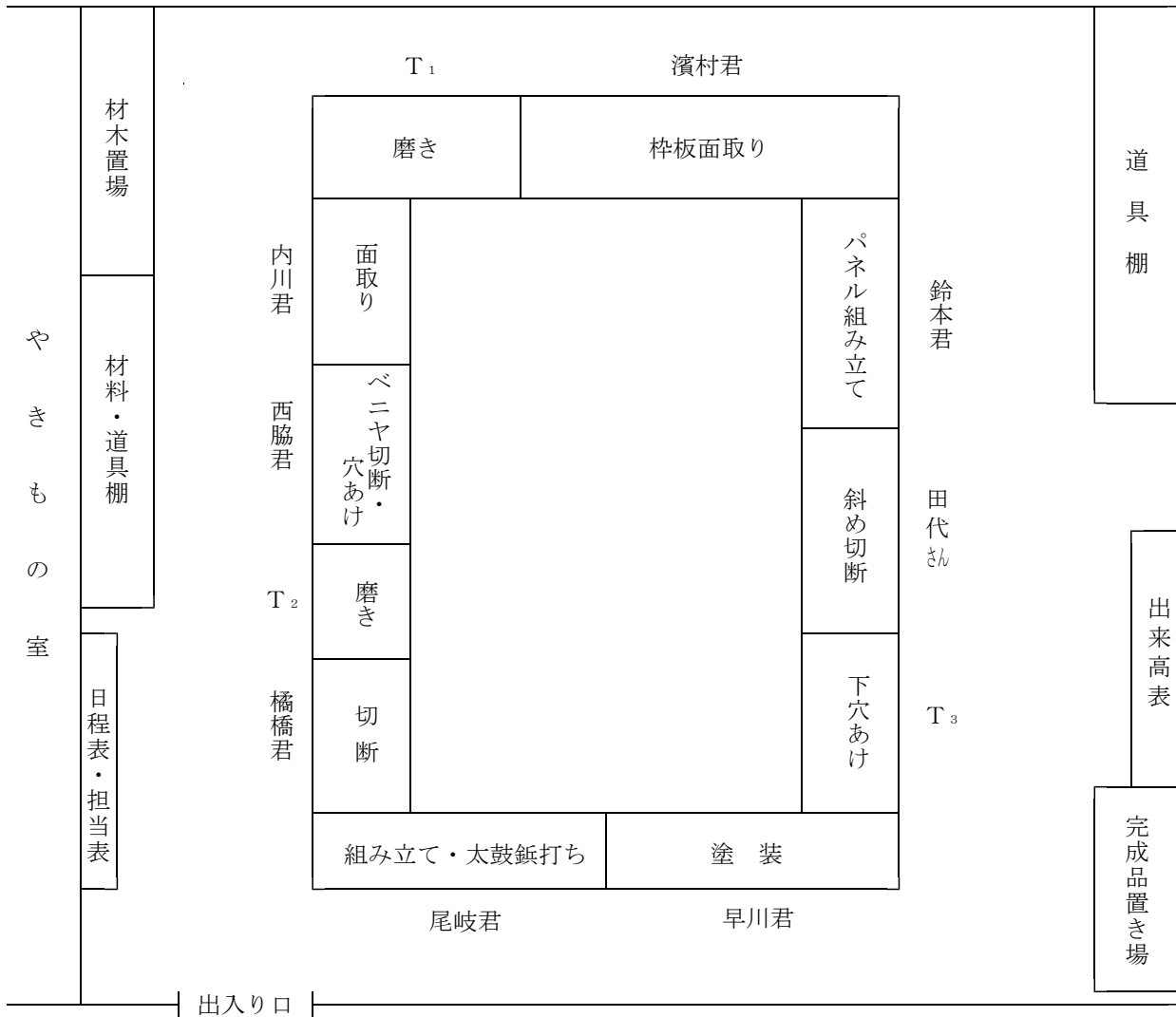
- ・ 材料を補充したり，出来上がった材料入れ用のコンテナがいっぱいになったら，新しいコンテナに取り替えたりする。

(2) 日程計画

月/日	曜	主 な 活 動	関 連 す る 活 動	
5 / 14	月	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>○「パネルキューブ」100個</p> <p>○ウッドパネル 50個</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日程，担当，製作目標数の確認 ・ レザークラフト班との打ち合わせ 	
15	火		<ul style="list-style-type: none"> ・ 材木の注文（材木店等） ・ 販売会場との連絡 	
16	水		<ul style="list-style-type: none"> ・ 材木の受け取り，材木店へ挨拶 	
17	木		<ul style="list-style-type: none"> ・ 『大販売会』だより』発行 	
18	金		<ul style="list-style-type: none"> ・ C高校に連絡 ・ 販売会場への連絡 	
21	月		<ul style="list-style-type: none"> ・ C高校に鉢花注文 ・ レザークラフト班との打ち合わせ 	
22	火		<ul style="list-style-type: none"> ・ 販売会場との打ち合わせ 	
23	水		<ul style="list-style-type: none"> ・ 『大販売会』だより』発行 ・ P R 活動 	
24	木		<ul style="list-style-type: none"> ・ プライスカード制作 	
25	金		<ul style="list-style-type: none"> ・ レザークラフト班との打ち合わせ ・ 出品表配布 	
28	月		<ul style="list-style-type: none"> ・ 販売会場との連絡 	
29	火		<ul style="list-style-type: none"> ・ 販売会場準備 	
30	水			
31	木		「木工・レザークラフト大販売会」	
6 / 1	金	片 付 け	<ul style="list-style-type: none"> ・ レザークラフト班との報告会 ・ 会計処理 	

※注文も随時受け付け，納品していく。

(3) 場の配置と設定 (「パネルキューブ」の製作) ※名前はすべて仮名



(4) 道具や補助具など



〈切 断〉



〈ベニヤ切断〉



〈面取り〉



〈枠板面取り〉



〈斜め切断〉



〈塗装〉



〈組み立て〉



「パネルキューブ」完成品

5. 本時の計画

(1) ねがい

○今年度初めの販売会に向けて、1人ひとりが担当の仕事に精一杯取り組み、力を合わせて「パネルキューブ」とウッドパネルを製作してほしい。

(2) 展開

時配	生徒の活動	支援上の留意点	道具等
5	○仕事の準備をする。 ・作業着等を身につけ、それぞれの担当の準備をする。	・期待感をもって意欲的に取り組めるように、一緒に仕事の準備をしながら、これまでの製作数や本時の目標数のことなどを話題にする。	作業着 帽子 防じんマスク
100	○「パネルキューブ」とウッドパネルを製作する。 〈切断〉 (橋橋君) ・電動丸ノコで、材木を12cmの長さに斜めに切断する。 〈ベニヤ切断・穴あけ〉 (西脇君) ・卓上スライド丸ノコで、ベニヤを切断する。 ・電動ドライバーでベニヤに木ネジ用の穴をあける。 〈面取り〉 (内川君) ・材料を固定枠に並べてルーターに送り込み、面取りをする。 〈枠板面取り〉 (濱村君) ・材料をルーターに送り込み、面取りする。 〈パネル組み立て〉 (鈴木君) ・組み立て枠に材料をセットして、パネルを組み立てる。 〈斜め切断〉 (田代さん) ・パネルを固定枠にセットして、丸ノコ盤に送り込み、側面を斜め45°に切断する。 〈塗装〉 (早川君) ・塗り棒で、材料の表面を塗る。 〈組み立て・太鼓鉋打ち〉 (尾岐君) ・材料を組み立て枠にはめ、電動ドライバーで木ネジを打ち込んで固定する。 ・太鼓鉋を打ち込む。	・正確な長さや形に切断できるように、ガイド枠を用意しておく。 ・十分な量の材木を近くに用意しておき、あらかじめ仕事の進め方を確認し合っておく。 ・材料は、向きをそろえてコンテナに入れておく。 ・次々と取り組めるように、材料を押し込んで切断できるガイド枠を用意しておく。 ・正確な位置に穴をあけるように、ベニヤを固定するための枠を用意しておき、1つずつ確実に穴をあけていくことを確認し合う。 ・取り組みやすいように、材料をセットしやすい面取りのガイド枠を用意しておく。 ・固定枠に入れる向きや送り込む手順を、あらかじめ確認し合っておく。 ・見通しをもって取り組めるように、面取りをする材料をまとめて用意しておき、はじめに確認し合っておく。 ・取り組みやすいように、ルーター台に材料を確実に送り込めるガイド枠を取り付けておく。 ・様子を見て、面取りし終えた材料を向きをそろえて並べることを確認し合っておく。 ・手際よく進められるように、材料を種類ごとにまとめてトレイに入れて用意しておく。 ・適量の木工ボンドで材料を仮止めしてから組み立てることを、あらかじめ確認し合っておく。 ・切断する面がわかりやすいように、パネルを一定方向に並べて用意しておく。 ・スムーズに固定枠を送り込めるように、あらかじめガイドの滑り具合を調整しておく。 ・塗装しやすいように、あらかじめ木口等にはやすりをかけてバリを落としておく。 ・塗料をつけすぎないように、適量の塗料をすくえるレードルを用意しておく。 ・取り組みやすいように、打ち込みやすい高さの組み立て台を用意しておく。 ・本時の組み立て目標数に達したら、太鼓鉋打ちに移ることを、あらかじめ確認し合っておく。	材木 集じん機 電動丸ノコ ガイド枠 ベニヤ 卓上スライド 丸ノコ 集じん機 電動ドライバー ルーター 集じん機 ガイド枠 ルーター ルーター台 集じん機 ガイド枠 組み立て枠 トレイ 電動ドライバー 木工ボンド 丸ノコ盤 塗り棒 塗料 塗料容器 レードル 木ネジ 電動ドライバー プラスチック ハンマー 太鼓鉋 ほうき 小ほうき モップ ちりとり
15	○片付けをする。 ・使用した道具等を片付け、掃除をする。	・期待感が高まるように、片付けや掃除をしながら、本時の完成数や納品について話題にする。	